

MEMO

第46回日本癌学会市民公開講座

最新のがん治療と 未来への懸け橋

2025年9月27日(土) 15:30~18:00
金沢市アートホール

現地+WEB(ライブ)配信

参加費
無料
事前申込制

司 会

矢野 聖二
後藤 典子

日本癌学会 副理事長、金沢大学医薬保健研究域医学系 呼吸器内科学 教授

日本癌学会 広報委員長、金沢大学がん進展制御研究所 教授

開会の挨拶

大島 正伸
梅田 正行
和田 隆志

日本癌学会 理事長、第84回日本癌学会学術総会 学術会長、金沢大学がん進展制御研究所 教授

日本対がん協会理事長、株式会社朝日新聞社顧問

金沢大学 学長

プログラム

講演① 15:40-16:00

進化を続ける肺がんの治療

矢野 聖二 金沢大学 医薬保健研究域医学系 呼吸器内科学 教授

講演② 16:00-16:20

がんを切る、命をつなぐ～最新の外科治療と未来への挑戦～

稲木 紀幸 金沢大学医薬保健研究域医学系 消化管外科学/乳腺外科学 教授

講演③ 16:20-16:40

乳がんと共に生きる～正しい知識と上手な付き合い方～

井口 雅史 金沢医科大学 乳腺外科 診療科長、准教授

休憩10分 16:40-16:50

講演④ 16:50-17:10 (第39回北國がん基金助成対象)

がん核酸医薬のトランスレーショナルリサーチ

谷口 博昭 金沢大学がん進展制御研究所 教授

講演⑤ 17:10-17:30 (第39回北國がん基金助成対象)

本物に触れ、未来を創ろう！～高校生が体験する、がん研究の最前線(がん研EEP)～

平尾 敦 金沢大学がん進展制御研究所 教授

パネルディスカッション 17:30-17:55

閉会の挨拶

後藤 典子

日本癌学会 広報委員長、金沢大学がん進展制御研究所 教授

主 催 一般社団法人日本癌学会、公益財団法人日本対がん協会 共 催 公益財団法人北國がん基金、次世代北信がんプロ

後 援 厚生労働省、文部科学省、石川県、金沢市、石川県医師会、金沢市医師会、国立大学法人金沢大学、全国がんプロ協議会、金沢コンベンションビューロー

第46回 日本癌学会市民公開講座

司会



矢野 聖二

日本癌学会 副理事長、
金沢大学医薬保健研究域医学系
呼吸器内科学 教授



後藤 典子

日本癌学会 広報委員長、
金沢大学がん進展制御研究所 教授

開会の挨拶 15:30-15:40



大島 正伸

日本癌学会 理事長、
第84回日本癌学会学術総会 学術会長、
金沢大学がん進展制御研究所 教授



梅田 正行

日本対がん協会理事長、
株式会社朝日新聞社顧問



和田 隆志

金沢大学 学長

講演 ① 15:40-16:00

進化を続ける肺がんの治療

矢野 聖二 金沢大学 医薬保健研究域医学系 呼吸器内科学 教授



肺がんはわが国のがん死亡原因の第1位で、その数はいまだ増加の一途をたどっています。肺がんの最も重要な原因は喫煙なので、予防にはタバコを吸わないことが大切です。また、40歳を過ぎるとレントゲン撮影による肺がん検診を受け、早期発見することが重要です。治療は主に外科的切除、放射線治療、薬物療法があり、近年いずれも目覚ましい進歩を遂げています。

外科的切除ではロボット手術による低侵襲手術が、放射線治療では強度変調回転放射線治療などの定位放射線治療が導入されて残存臓器機能を可能な限り保つことが可能になってきています。薬物療法としても、従来からの抗がん薬に加え、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬、抗体薬物複合体、二重特異性抗体などにより治療成績が向上してきています。その一方で、副作用や高額な医療費が問題となっていることなども紹介します。

講演 ② 16:00-16:20

がんを切る、命をつなぐ～最新の外科治療と未来への挑戦～

稲木 紀幸 金沢大学医薬保健研究域医学系 消化管外科学/乳腺外科学 教授



かつて消化器がん治療といえば、外科的切除が唯一の治療手段でした。しかし現在では、抗がん剤や分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬といった新規薬剤、さらには放射線治療など、手術以外にもさまざまな治療選択肢が存在します。その一方で、化学放射線療法を行っても完全な治癒が得られず、最終的に外科的切除が必要となるケースもあり、外科治療はいまなお重要な役割を担っています。

外科では、従来の開腹・開胸手術に加えて、胸腔鏡・腹腔鏡手術やロボット支援手術といった低侵襲手術が発展し、より精緻で身体への負担の少ない治療が可能となっています。こうした進歩により、安全性、根治性、機能温存、低侵襲性を兼ね備えた理想的ながん手術が実現されつつあります。

また、外科医は切除したがん組織を基に基礎研究にも貢献し、その成果を臨床に還元する「橋渡し」の役割も担っています。さらに、近年はAIや遠隔手術技術の導入が進み、より高度で効率的な外科治療が現実のものとなりつつあります。

本講演では、最新の外科治療がどのように進化してきたのか、そして今後がんはどう向き合い、命をつないでいくのか、その挑戦と展望をお話しします。

講演 ③ 16:20-16:40

乳がんと共に生きる～正しい知識と上手な付き合い方～

井口 雅史 金沢医科大学 乳腺外科 診療科長、准教授



乳がんは日本人女性の9人に1人がかかる病気です。近年、乳がんの様々なリスク因子（なりやすい方の特徴）がわかってきましたが、これらのリスクを避けるだけでは完全に乳がんにかかることを予防する（一次予防）ことはできません。となると乳がんの早期発見（二次予防）が重要になりますが、乳がんのマンモグラフィ検診を受けていれば安心かといえ、マンモグラフィ検診も100%の診断力はありません。世の中にはテレビやソーシャルメディアなど様々ながんに関する情報が氾濫しており、一般の方々は、何が正しい医療情報なのかを見分ける力も必要になってきます。乳がんは正しい治療を選択し受けてもらえれば、決して根治不能な病気ではありません。本講演にて乳がんの正しい知識を身につけて頂ければ幸いです。

休憩10分 16:40-16:50

講演 ④ 16:50-17:10（第39回北國がん基金助成対象）

がん核酸医薬のトランスレーショナルリサーチ

谷口 博昭 金沢大学がん進展制御研究所 教授



がん治療はこれまで低分子薬や抗体医薬が中心でしたが、近年、遺伝子そのものを直接狙う「核酸医薬」が新しい治療法として注目されています。核酸医薬は、DNAやRNAといった遺伝子情報を利用して原因遺伝子の働きを抑えるため、これまで薬にできなかった分子や転写因子にも作用でき、治療の可能性を大きく広げます。

私たちは、乳・膵・卵巣・肺がんなどで異常に高く働く転写因子で、再発や転移、薬剤耐性に関わるPRDM14という遺伝子を標的に、小さなRNA薬（siRNA）を開発しました。この挑戦は、医学だけでなく理学・工学・薬学の研究者と力を合わせ、効果の高いsiRNA設計や、がんに効率よく届けるナノマシンの創出などの数々の工夫を重ね、原薬製造や製剤化では国内外の企業の高度な技術支援を受け、基礎研究から臨床応用まで一体で推進しました。

完成した薬は非臨床試験を経て、がん研究会有明病院で難治性乳がん患者さんを対象に世界初の第Ⅰ相治験を開始し、良好な安全性と一部の患者さんで病勢安定が得られ、長期間進行を抑えられた例もありました。血中薬物濃度は動物実験で有効性を示したレベルに達し、臨床応用への道筋が示されました。

臨床と並行した研究開発は容易ではありませんが、企業・研究者・医療機関と連携し、患者さんの未来を拓くため挑戦を続けています。核酸医薬は、遺伝子レベルでがんを抑える新しい治療法であり、がん克服への大きな一歩になると信じています。

講演 ⑤ 17:10-17:30（第39回北國がん基金助成対象）

本物に触れ、未来を創ろう！～高校生が体験する、がん研究の最前線(がん研EEP)～

平尾 敦 金沢大学がん進展制御研究所 教授



なぜ正常な細胞ががん化するのか。がん細胞をどのようにすれば効果的に死滅させられるのか—このような問いに、私たちがん研究者は長年挑み続けています。しかし、いまだに解明されていないことが多くあります。がん研究をさらに発展させ、未来の医療を切り拓いていくためには、今後も多くの若く優秀な人材がこの分野に挑戦していくことが不可欠です。そのため、金沢大学がん進展制御研究所では、WPIナノ生命科学研究所と連携し、2022年より高校生を対象とした「がん研究早期体験プログラム(がん研EEP)」を実施しています。高校生が実際に研究現場を訪れ、研究者から直接話を聞き、実験を見学・体験することで、がん研究への関心を高めてもらうことを目的とした取り組みです。

がん研EEPは、プログラム内容の多様性、実施規模、研究内容の高度さのいずれにおいても、先進的な試みであると自負しています。さらに、その運営費の大半を一般の方々からのご寄附によって賄っている点も、大きな特長です。

本講演では、この活動を始めたきっかけや、実施を通して得られた気づきや課題、そして私たちが今後目指す方向について、ご紹介いたします。

パネルディスカッション 17:30-17:55

閉会の辞 後藤 典子 日本癌学会 広報委員長、金沢大学がん進展制御研究所 教授